

「狂犬病」とは、 どんな病気ですか？



発症するとほぼ100%死亡し、
有効な治療法がない恐ろしい病気です。

1 狂犬病は人にも感染するのですか？

狂犬病は、狂犬病ウイルスを原因とする疾患で、すべての哺乳類に感染することが知られており、もちろん人も例外ではありません。

人への感染は、主に狂犬病に感染した動物に咬まれ、唾液中に排出されるウイルスが傷口より体内に侵入することにより感染します。

2 狂犬病を発症した場合に治療法はありますか？

狂犬病は一旦発症すれば効果的な治療法はなく、ほぼ100%の方が亡くなります。感染動物に咬まれるなど感染した疑いがある場合には、その直後から連続したワクチン接種をすることで発症を抑えることができます。

3 世界ではどのくらい発生していますか？

狂犬病は日本、英国、オーストラリア、ニュージーランドなどの一部の国々を除いて、全世界に分布しています。つまり、海外ではほとんどの国で感染する可能性のある病気です。

世界保健機構の推計によると、世界では年間におおよそ5万5千人の人が狂犬病で亡くなっています。また、このうち3万人以上はアジア地域での死亡者と言われています。

4 日本ではどのくらい発生していますか？

日本国内では、人は昭和31年を最後に発生がありません。また、動物では昭和32年を最後に発生がありません。なお、輸入感染事例としては、狂犬病流行国で犬に咬まれ帰国後に発症した事例が、昭和45年にネパールからの帰国者で1例、平成18年にフィリピンからの帰国者で2例あります。

5 どうして犬に狂犬病の予防注射を受けさせないといけないのですか？

狂犬病は全ての哺乳類に感染しますが、まん延の原因となる動物は限られており、アジア地域等、狂犬病の流行国では、犬が主なまん延源となっています。従って、飼い犬に狂犬病の予防注射を接種することで犬のまん延が予防され、人への被害を防ぐことができ、日本でも万が一狂犬病が侵入した場合に備えて、飼い犬への狂犬病予防注射を義務づけています。

日本国内には狂犬病の発生はありませんが、近隣諸国では狂犬病がまん延しており、日本への本病の侵入リスクは皆無ではありません。犬の所有者は、社会に対する責務として必ず実施してください。